

| 専門分野 | | | |
|---|--------------|-----------------------|--|
| 教科教育学(社会科教育)、教師教育 | | | |
| 研究課題 | | | |
| ①社会科教育における科学的社會認識形成の筋道 ②地域に根ざす教員養成と教師教育 | | | |
| 教育活動 | | | |
| 担当授業科目(学部) | | | |
| 教育基礎演習 A、教育基礎演習 C、教職特別演習(教育実践) A、教職特別演習(教育実践) C、教育実習－a、栄養教育実習、教職実践演習(養護教諭)、学校インターンシップ | | | |
| 担当授業科目(大学院) | | | |
| | | | |
| 事項 | 年月 | 対象者 | 概要 |
| 教育方法の実践例 | | | |
| 思考力、表現力、言語力を高めるためのKJ法を生かした発表を重視した授業の展開 | 平成 27 年 4 月～ | 2～4回生 | 一斉授業では発表の機会が少ないため、小集団学習(グループでの学習)を取り入れ、1項目1枚のカードを書き出すことによって、カードをグルーピングし、つながりを考えることによって関係性を見出し全体の中に発表することを通して、課題を共有し思考力を高める実践を実施した。 |
| C-Leaningの活用による課題についての発表から授業を展開する、「反転授業」的な授業展開の試み | 平成 27 年 4 月～ | 4回生 | 事前に知らされた課題について事前学習として基本文献を読んでおき、授業の最初に発表することによって授業を構成し、意見発表や、感想・論議を重視する授業を展開しようと試みた。学生の学習への意欲がポイントになる授業展開である。 |
| VTR利用によるストップモーション方式を活用した省察 | 平成28年6月～ | 3～4回生 | VTRで撮影した映像を使って自分自身や受講生の態度や発言から客観的に課題を見つけ指摘し合うことによって省察的な振り返りをすることができ、意欲的な学習を進めることができる。 |
| 作成した教材・資料集 | | | |
| 平成 27 年度免許状更新講習「必修領域」テキスト | 平成 27 年 8 月 | 教育免許状更新講習参加者 | 平成 27 年度更新講習テキストとしてこれまでの取り組みを整理し、「地域と学校」の関係を「学校側からのお願いの関係」から「協働の関係」に充実させるための事例を通して理論化を図るために編集。 |
| 地域と学校教育 ～地域と結ぶ教材づくり～ | 平成28年3月 | 4回生、免許更新講習受講生 | 地域と学校の関係が重視される昨今、どのような事例で協働が成立するのかを二つの事例を通して具体的に学ぶことができるような典型を例示した。 |
| 改訂版 地域と学校教育 ～地域と結ぶ教材づくり～ | 平成 29 年 3 月 | 4回生「教育実習」指導、免許更新講習受講生 | 地域と学校の関係が重視される昨今、どのような事例で協働が成立するのかを「たかべみそ汁元気いっぱい」の取り組みを加えて三つの事例を通して具体的に学ぶことができるような改訂版を作成した。 |
| その他教育活動上特記すべき事項 | | | |

| | | | |
|--------------------|----------|------------------------|--|
| 教員採用試験特別講座(9月講座) | 平成27年9月 | 2～3回生 | 教員採用試験の対策として大阪府チャレンジテストに向けての対応を図るため9月に教職教養科目内容に特化した講座の企画・運営・講師として参画。12月試験においては本学として5名の通過者を出す成績。 |
| 教員採用試験特別講座(春季講座) | 平成28年3月 | 3回生を中心に1, 2回生にも呼びかけて実施 | 次年度教員採用試験に向けての事前準備や取り組みの計画を立案する一環として実施し、春休み中の自主的学習を援助する目的で企画、運営し講師として参画。 |
| 定例教職課程ホームルーム(水曜5限) | 平成28年4月～ | 1～4回生(教職課程履修生全員) | 教職課程履修者の横のつながり及び学生の教職に関わる力量の向上、情報提供の改善を図るために今年度の4月に新設した。授業として通年で運営し、4年間の学習の見通しがもてるような機会を提供する。 |
| 教員採用試験模擬面接講座 | 平成28年4月～ | 4回生 | 教員採用対策の一環としての面接についての具体的な個別の指導及び教育相談 |
| 教員採用試験エントリーシート作成講座 | 平成28年4月～ | 4回生 | 進路指導を含む教員採用対策の一環としての具体的で個別の指導及び教育相談 |
| 教員採用試験特別講座(9月講座) | 平成28年9月 | 2～3回生 | 教員採用試験の対策として大阪府チャレンジテストに向けての対応を図るため9月に教職教養科目内容に特化した講座の企画・運営・講師として参画。12月試験においては本学として90倍以上の難関の中、1名の通過者を出す成績。 |
| 教員採用試験特別講座(春季講座) | 平成29年3月 | 2～3回生 | 次年度教員採用試験に向けての事前準備や取り組みの計画を立案する一環として実施し、春休み中の自主的学習を援助する目的で企画、運営し講師として参画。 |

研究活動

| 著書・CD・論文・学会発表・演奏会等の名称 | 単共の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 共著者、共同発表者、共演者の名前、曲名、担当頁、概要など |
|-----------------------|------|-----------|---------------------|------------------------------|
| 著書・訳書・CD等 | | | | |

学術論文

| | | | | |
|---------------------------------|---|---------|--|--|
| へき地・複式教育実習10年と今後の展望 | 単 | 平成24年3月 | 和歌山大学教育学部発行『平成23年度へき地複式教育実習の取り組み』pp.92-93 | 2002年3月1週間の試行を企画立案実施し、2003年3月に2週間のへき地・複式教育実習として10年の実践をまとめ、小学校における複式学級の教育実習についての成果と課題をまとめた。 |
| 海南中学校・附属小学校・金屋中学校・文成中学校における共同研究 | 共 | 平成24年9月 | 和歌山大学教育学部発行『和歌山大学附属学校・公立学校との連携事業』(平成23年度)p.p.24-39 | 附属小学校及び公立2中学校との授業を中心に取り組みをまとめた。附属小では総合学習と社会科、社会科研究授業の実践記録を検討し研究会の議論を通して検討を加えた。 |
| 生徒は徳政一揆をどう学ぶか | 共 | 平成25年9月 | 和歌山大学教育実践総合センター紀要第22号 pp.101-108 | 中世社会における特性の考え方が現在の経済における借金棒引きとは全く違う思想的な裏付けがあることについて驚きを持ってとらえさせることを通して、仮説 |

| | | | | |
|---|---|---------|--------------------------------------|--|
| | | | | に基づく生徒の調査研究をエビデンスとする討論学習を組織するという実践研究論文である。中世では、地おこしの思想と呼ばれ土地は耕作される人のもとで新たな価値を生むとされ、徳政一揆の根拠となっている。幕府の財政破綻や権力者による覇権争いを歴史の展開と関わらせて授業づくりを行う重要性を具体的に指摘した。共著者 森田泰充 |
| 考える「日本史」学習 | 共 | 平成26年9月 | 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要第23号 pp.105-115 | 高校日本史学習において討論学習を重視した地域に関連させた教材開発に重点を置いた実践研究で、地域教材の開発が生徒の活発な論議を引き起こすことを事実認識、関係認識、意味認識の獲得に関わって考察した。中でも事実認識の獲得を丁寧に行うことによって既知の知識との矛盾や相違をつくりだすことが重要であることを明らかにした。共著者 森田泰充 |
| 初任者研修の高度化 | 単 | 平成26年9月 | 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要第24号 pp.59-66 | 初任者研修の高度化は教員養成の修士レベル化に向けた取り組みの一つとして位置づけられる。和歌山大学が大学・大学院と教育委員会の協働による養成・採用・研修を一体化した全国的にもユニークなモデル事業として取り組んだ事業について、総括責任者としてまとめたものである。大学では、この取り組みの成果や課題について検討を進め、実践的な教育内容をどう構築するかという観点から、教育委員会は初任者研修の在り方を検討し、法定研修の一つである初任者研修プログラム開発としての位置づけ、「学び続ける教員」の資質形成についての成果を得た。 |
| 小規模学級(分校)での地域に根ざす社会科学習についての一考察～上神野地区でのへき地教育実践をもとにした安原小学校吉原分校の授業づくり～ | 共 | 平成27年3月 | 和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター紀要臨時増刊 pp.21-28 | 地域に根ざす社会科学習についての検討を和歌山市内の分校を抱える小学校において、教材開発の観点から分析し、社会科授業において大切にしなければならないことを具体的に提起した。共著者 西浦民子 |
| 発達保障・学力保障とは何かが問われている | 単 | 平成27年3月 | 和歌山県国民教育研究所『学力テスト体制を考える』 pp.8-11 | 学力テスト体制のなかで、各県の全国一斉学力テストの結果が公表されることによって、競争的な学力観が中心になり、学力保障の観点が希薄になってきている。本当の学力を考えることによって現状克服の視点を探る。 |
| 教員養成における社会認識教育についての一考察 | 単 | 平成28年3月 | 帝塚山学院大学教職実践研究センター『年報』創刊号 pp.1-11 | 主権者としての社会認識育成のための「地域」についての学習が社会科教育においてどのような位置づけができるのか、また導入としての地域についての「地域学習」とどのような点が違うのかを考察し、小学校、中学校、高校での社会科学習における主権者としての能力を育成する社会科について検討を加えた。 |
| メディアと社会科教育～メディアをめぐる今日的状況と課題～ | 単 | 平成28年3月 | 帝塚山学院大学教職実践研究センター『年報』創刊号 | メディア社会における社会科教育はどうあるべきか。マスメディア社会からインターネットなどによる高度情報化社会への移行期に、小学校から高校までの社会 |

| | | | | |
|--|---|--------------|--|---|
| | | | | 科教材を開発する視点を創造することを目標としてまとめた。 pp.12-22 |
| 「学び続ける教師」としての基礎を自らの報告の中に見つける姿勢を！ | 単 | 平成 28 年 3 月 | 帝塚山学院大学教職実践研究センター『年報』創刊号 | 平成 27 年度の教職実践研究センターなどの主催による教職課程シンポジウム（11 月狭山キャンパスにて開催）における教育実習における報告をまとめ考察を加えた。 pp.53-55 |
| 帝塚山学院大学における教員養成の現状と課題 | 単 | 平成 29 年 3 月 | 帝塚山学院大学教職実践研究センター『年報』第 2 号 pp.35-44 | 過去 5 年間にわたる教員免許取得状況と就職状況を分析し、教員養成の質の向上に向けての全国的な状況とも関連させながら、学部学科における教員養成の重点について考察を加えた。本学の教員養成についての将来ビジョンを策定する基礎資料を提供した。 |
| 社会科教育における人権認識の形成～社会科における社会認識の形成と人権認識～ | 単 | 平成 29 年 3 月 | 紀要『部落問題研究』第220輯 pp.98-125 | 人権認識の形成を社会認識の形成との関係で捉え、とりわけ社会科教育における認識形成との関係を整理し、学校教育における人権認識形成を図るとき、態度そのものを評価するのではなく、知識の定着との関係で捉えることによって、作品（パフォーマンス）として表現されるまでの過程の中で把握すべきことを小学校の社会科授業で、実証的に検討した。 |
| 学会発表 | | | | |
| インターシップ～職能開発を考える～ | 単 | 平成25年6月 | 福井大学教職大学院に関するフォーラム（パネラー） 福井大学 | 教師のインターシップに関して、和歌山大学で実施の初任者研修に関わるモデル事業についての成果と課題についての発表。 |
| 演奏会・発表会 | | | | |
| | | | | |
| その他の研究発表、演奏 | | | | |
| 押しつけない研修の在り方 | 単 | 平成25年12月 | 和歌山大学教育学部・和歌山県教育委員会連携協議会第9回教育フォーラム（パネラー） | 教育フォーラムにおける初任者研修の在り方について具体化した。基本コンセプトとして「学び続ける教師」の研修の在り方を現在の教育センターでの研修ではなく、自主的な研修の機会を提供する必要があることについて実践を通して効果を検証し、発表した。 |
| 「学び続ける教師」としての基礎を自らの報告の中に見つける姿勢を！ | 単 | 平成 27 年 11 月 | 帝塚山学院大学教職課程シンポジウム | 教育実習報告を受けて全体総括として問題提起。学び続ける教師像を構築するための基礎的な力を養うことの大切さとその具体的な取り組みとしての実践記録の大切さを説いた。 |
| 「学び続ける教師」を求めて | 単 | 平成 28 年 11 月 | 帝塚山学院大学教職課程シンポジウム | 教育実習報告を受けて全体総括として問題提起。学び続ける教師像を構築するための基礎的な記録する力を養うことの大切さと実践記録の重要性についてまとめた。 |
| その他の著書、訳書等（雑誌原稿等を含む） | | | | |
| 教育研究全国集会2015報告集 「分科会報告3 社会科教育」（全国教育研究会社会科分科会） | 共 | 平成27年12月 | 『日本の民主教育』pp67-75（分担pp73-74） | 2015年度の全国教研社会科分科会の成果と課題を整理し、研究の到達点を明らかにした。 |

| | | | | |
|---|---|----------|------------------------------|--|
| アクティブ・ラーニングとNIEの取り組み | 単 | 平成27年6月 | 和歌山県NIE協議会発行『NIE実践報告書』巻頭言1頁 | NIE(教育に新聞を)協議会の各年度の実践報告書における教育動向の中で注目されるアクティブ・ラーニングとNNIEの関係について課題提起した。 |
| 教育をめぐる10数年の政策動向と対抗軸の構築 | 単 | 平成27年5月 | 滋賀県民主教育研究所発行『手をつなぐ』323号巻頭言1頁 | 文科省を主とする国の教育政策の動向を3つの視点から整理し、国民側からの対抗軸を示す。 |
| 年報「はじめに」 | 単 | 平成28年3月 | 帝塚山学院大学教職実践研究センター年報(別冊)創刊号1頁 | 教育実習報告を中心に編集した本学の教職課程履修生の報告書で、従来の学部ごとの編集を統一して年報別冊として編集発行した。 |
| 年報(別冊)「はじめに」 | 単 | 平成28年3月 | 帝塚山学院大学教職実践研究センター年報 創刊号1頁 | 本学の教職にかかわる研究論文や教職シンポジウムの成果と課題を中心に編集をした。実践研究センターの年報として1年間のまとめを主眼に置いた。 |
| 小学校から中学校へのつながりのある指導 | 単 | 平成28年4月 | 教育科学「社会科教育」NO. 684 pp. 18-19 | 「アクティブ・ラーニング時代の授業開き」の特集において、小学校から中学校への接続を考える観点として、「対話」「地域に根ざすカリキュラム」「発達課題」という3つの観点から考察した。 |
| 歴教協第68回沖繩大会報告集 第20分科会「大学」報告 | 単 | 平成28年11月 | 歴史地理教育NO. 857 PP. 73-74 | 全国大会大学分科会の大学分科会まとめを教員養成の観点と教育内容としての歴史教材の観点から進めた。地域に根ざすこと、身近な戦争教材から平和について歴史認識を育成することにかかわる論議をまとめた。 |
| 教育研究全国集会2016報告集「分科会報告3 社会科教育」(全国教育研究集会社会科分科会) | 共 | 平成28年12月 | 『日本の民主教育』pp69-78(分担pp69-72) | 2016年度の全国教研社会科分科会の静岡大会の成果と課題を整理し、研究の到達点を明らかにした。 |
| 年報「はじめに」 | 単 | 平成29年3月 | 教職実践研究センター年報第2号 1頁 | 本学の教職にかかわる研究論文や教職シンポジウムの成果と課題を中心に、実践研究センターの年報として第2号をまとめた。 |
| 年報(別冊)「はじめに」 | 単 | 平成29年3月 | 教職実践研究センター年報(別冊)第2号 1頁 | 本学の教育実習を中心にした記録集を別冊として両キャンパスの4回生を中心にまとめた。実践研究センターの年報別冊としては、2号目である。 |

研究助成金の受給状況

科研費の採択

| 研究タイトル | 助成金タイトル、支給元 | 研究代表者・分担者の区別 |
|--------------------------|----------------------|--------------|
| 人権教育における教育実践の構造に関する実証的研究 | 科学研究費 基盤C | 分担研究 |
| | 支給額 | 支給年度 |
| | (部落問題研究所で梅田修研究代表が管理) | 平成26年～28年 |

| その他研究活動上特記すべき事項 | 年月 | 概要 |
|-----------------|----|----|
| | | |

学内委員等

| 就任期間 | 機関名・委員名・役職名 |
|------------|----------------------|
| 平成27年4月～現在 | 教職実践研究センター長 |
| 平成27年4月～現在 | 教職実践研究センター運営委員会「委員長」 |
| 平成27年5月～現在 | 評議会(オブザーバー参加) |

| | | | | |
|--|-----------------------------------|--------------------|--------------------|---|
| 平成 27 年4月～現在 | 合同教職課程委員会委員(平成28年4月より委員会「委員長」～現在) | | | |
| 平成 27 年4月～現在 | 大学資格課程委員会委員 | | | |
| 平成 27 年4月～現在 | 心理学科教職課程ワーキンググループ | | | |
| 平成 28 年7月～平成29年2月 | 教職課程教員採用選考委員長 | | | |
| 社会活動 | | | | |
| 学会役員 | | | | |
| 就任期間 | | 学会役員名 | | |
| 平成 12 年～現在 | 歴史教育者協議会全国大会「世話人」(分科会運営責任者) | | | |
| 平成 18 年～現在 | 全国教育研究集会社会科分科会「共同研究者」 | | | |
| 平成 11 年～平成27年3月 | 滋賀県歴史教育者協議会副会長 | | | |
| 公開講座 | | | | |
| 講座名、講演タイトル | 単共の別 | 年月 | 場所 | 概要 |
| 平成 27 年度免許状更新講習「必修領域」 | 単 | 平成 27 年 8 月 | 帝塚山学院大学泉ヶ丘キャンパス | 必修領域の「学校と地域」の連携・協働に関する諸課題をどのようにとらえ実践を構築するかについての事例をもとに考察 |
| 和歌山県教育研究集会社会科分科会講演「教員養成における社会認識育成についての課題からの一考察～主権者意識の形成を社会科教育実践を通して考える～」 | 単 | 平成27年12月 | 和歌山県那智勝浦 | 和歌山県教育研究集会社会科分科会での18歳選挙権行使を前に社会認識をどのように地域とかがわって培っていくかについての教育実践を考察。 |
| 「建国記念の日」を考え、戦争法廃止をめざす滋賀県のつどい 講演「侵略戦争の歴史から学び、安倍政権を考える」 | 単 | 平成 28 年 2 月 | 滋賀県大津市 (大津市弁護士会館) | 建国記念の不承認という位置づけでの歴史から学ぶ市民の在り方を根底に県政兼の持つ戦争への認識を侵略戦争という視点から振り返る |
| 第10回甲賀・湖南母親大会講演「過去の戦争の歴史に学んで平和な世の中を」 | 単 | 平成 28 年 3 月 | 滋賀県湖南市柑子袋まちづくりセンター | 戦後の歴史を振り返り、大切にしてきた平和について考える基本としての憲法精神や立憲主義の考え方等を取り上げ、戦争についての現代史について検討をする。 |
| 平成 28 年度大阪狭山市成人大学講座「学校教育現場から考える心と体の健康」 | 単 | 平成28年5月 | 大阪狭山市立狭山公民館 | 心と体についてのシリーズの講座の第1講座。学校における子どもの心と体に関する結びつきを子どもの作文を通して考察した。 |
| 帝塚山学院大学平成28年度入学説明会「教育動向と高校の課題」 | 単 | 平成28年6月 | ホテルグランビア和歌山 | 教育改革が進む中、高等学校での打ち出される教育政策の重点について、中央教育審議会の答申に触れながら政策として推進される重点について検討する。 |
| 平成28年度免許更新講習「選択必修領域」 | 単 | 平成28年8月 | 帝塚山学院大学 | 選択必修領域における学校と地域のかかわりについて中央審議会の答申をもとに具体的事例を紹介しながら理解を図る。 |
| 学外機関委員等 | | | | |
| 就任期間 | | 機関名・委員名・役職名 | | |
| 平成22年6月～27年7月 | 和歌山 NIE 協議会会長 | | | |
| 平成26年9月 | 新聞コンクール和歌山県審査委員(全国コンクール予選選考会を兼ねる) | | | |
| 平成12年6月～現在 | 和歌山県教育研究集会分科会共同研究者 | | | |
| 平成12年4月～現在 | 部落問題研究所教育部会 | | | |

| | |
|---|---------------|
| 平成11年6月～現在 | 和歌山県国民研究所運営委員 |
| その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項 | |
| <p>(社会活動)「たかべみそ汁元気いっぱい」プロジェクト(高辺台小学校)での帝塚山学院畑部(畑部顧問:川本)学生参加の地域活動の支援<これまで、文科大臣表彰など表彰多数>2017年2月で9年を数えるが、2016年2月より参加し、この調査研究活動も兼ねて支援活動にあたっている。平成29年3月には、この一部をまとめた教材集を発行した。</p> | |
| 海外での活動 | |
| 海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること | |
| 期間 | 国名 |
| | 概要 |
| | |